

平成 28 年度

第 1 回

入 学 試 験 問 題

国 語

8 : 40 ~ 9 : 30

注 意

- 1 この問題用紙は、試験開始の合図で開くこと。
- 2 解答用紙に受験番号・氏名を記入すること。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入すること。
- 4 印刷がわからない場合は申し出ること。
- 5 試験終了の合図でやめること。
- 6 問題は各自持ち帰ること。

品川女子学院中等部

平成二十八年度 中等部入学試験問題 第二回 (国語)

◆答えはすべて解答用紙に書くこと

□ 次の(1)～(5)の――線部を漢字に直しなさい。

- (1) ピアノのエンソウ会に招待される。
- (2) 提案に対して異議をトナえる。
- (3) 売店でシェウカン誌を買う。
- (4) 工場に精密キカイを導入する。
- (5) 国際的な条約にカメイする。

三 次の(1)～(5)の問いに答えなさい。ただし(1)～(3)はひらがなでもよいが、(4)(5)は漢字で答えること。

(1) 下の意味となるように、空欄に生物の名前を入れて慣用句を完成させなさい。

「張り子の□」…外見は強そうだが、実は弱いもの。

(2) …線部が下の意味となるように、空欄に体の部位を入れて慣用句を完成させなさい。

今のふるまいは□に余る。…ひどくて見過ごせない。

(3) 下の意味となるように、空欄に語を入れてことわざを完成させなさい。

「青菜に□」…元気がなくしおれること。

(4) …線部の語の対義語(反対の意味の語)を漢字2字で答えなさい。

単純な構造になっている。

(5) 次の文の空欄に漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

空□絶□の大事事件となつてしまった。

三 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(ぬき出しと字数が決められている問題は、すべて「I」記号などを字数にふくみます。)

理想自己の形成には、青年期になると抽象的思考ができるようになることが関係している。そのため、具体的な行動と結びついた理想自己だけでなく、抽象的な価値観と結びついた理想自己ももつようになる。

たとえば、「日曜日は野球をして遊びたい」「サッカーがもっと上手になりたい」「テストでもっと良い成績が取れるようになりたい」というような具体的な目標をもつだけでなく、「もっと自分に自信がもてるようになりたい」「こんな退屈な日々から脱出したい」「自分が生きてるっていう実感がほしい」などといった抽象的な目標を意識するようになる。

具体的な目標と違って、このような抽象的な目標になると、その達成のためにどうしたらよいのがわからない。

日曜日に野球をして遊びたいというのであれば、ふだん野球を一緒にしている仲間と声をかければよい。サッカーがもっと上手になりたいのなら、時間をつくって練習に励めばよい。いきなり上手になるわけではないけれど、練習をすればするほど少しずつでも上達していくはずだ。テストでもっと良い成績を取りたいなら、試験勉強をしつかりやればよい。すぐに報われるとは限らないが、地道に勉強することができれば、着実に成績は向上していくだろう。このように、具体的目標の場合は、そのために頑張るべき方向性は明確だ。

① 抽象的な目標の場合はどうだろう。もっと自分に自信がもてるようになるためには、いったいどうすべきなのか。退屈な日々から脱するために、できることって何だろう。② 生きていくっていう実感を得るために、果たして何をすべきなのか。いくら考えても、なかなか答は見つからない。

今の自分にどこか納得がいかない。I、どうすればよいのかわからない。ここに産みの苦しみがある。第二の誕生という課題を前にして、どんな自分になったら納得できるのかわからない。そこで、ますます自分が気になってくる。そんな不快感を抱えた状態は、③ けつして気分の良いものではない。方向性を見つけて、こんな苦しい状態から何とか脱したい、早くスッキリしたいと思うかもしれない。でも、今の自分に納得がいかないからといって、自分を否定する必要はな

い。

自己^注の二重性を思い出してみよう。「見られている自分」に対して納得のいかない「見ている自分」がいるわけだ。その「見ている自分」は、適当に流されている自分にも不満をもたなかった以前の自分と比べて、はるかに向上心に満ちた自分と言えるだろう。そんな自分は、けっして否定すべきものではない。むしろ肯定^{こうてい}し、応援^{おうえん}すべきなのではないだろうか。

「自分らしく」と言われても

「自分らしく生きよう」とよく言われる。これからは個性の時代だ。みんなと一緒になんて面白^{おもしろ}くないじゃないか。もつと自分らしく生きなきゃダメだという。

たしかに何でもみんなと同じなら自分である意味がない。自分で考えて生きているという感じにならない。ただみんなに合わせて生きるだけの人生なんて、とても魅力^{みりょく}のあるものには思えない。

先生は「自分らしく」とか「個性」とか言うけど、今の学校でみんなと違うことばかり言ったりしたりしていたら、完全に浮いてしまう。みんな自分が浮かないかということばかりを気にしている。

Ⅱ、みんなの話題についていけなくなったら大変だと怖^{おそ}れている。そのため、ほんとうは興味のないテレビ番組を視たり、ユーチューブで共通のネタを仕込^{しこ}んだり、くだらないと思うネットの記事やブログを読んだり、ホンネを言えば「あんまりつきあいたくないなあ」と思う人たちのグループに属したりしている。

先生たちだって、そんな教室の空気はわかっているはずだ。それなのに「自分らしく」なんて言われたって困る。いったいどうしろって言うんだ。そんなふうに文句も言いたくなるだろう。

でも、ちよつと考えてみよう。今の教室みたいに、この先の人生、ずーっと、周りのみんなに合わせることはかり考えて、周囲から浮かないように空気を読んで、自分のホンネを抑^{おさ}え続けなければならないとしたら、何だかつまらない人生に思えないだろうか。そんな味気ない人生なんてイヤだなあと思えてこないだろうか。ふつうの神経なら、欲求不満で爆発^{ばくはつ}してしまうのではないか。

だったら、どうすればよいのだろう。

「好きなことをしよう」と言われることが多くなった。キャリア教育というのが急に盛^{さか}んになってきて、嫌々^{いやいや}仕事をする人生なんてつまらない、そんなんじや仕事を楽しめないから、

⑤ そう言われても、好きなことって何だろうというところでつまずいてしまう。そんなことはないだろうか。

好きなことが何もないのかと言われれば、そんなことはない。野球が好きだ。ポップスが好きで、だれだれのファンだ。鉄道が好きで、鉄^{てつ}ちゃんのネットにはまってる。だからといって、それが仕事になるとは思えない。あまりに非現実的だ。どうも大人たちの言うことはメチャクチャだ。僕は、年^{ねん}齡^{れい}的にいえばとんでもなく大人なんだけど、つくづくそう思っ^⑥てしま^⑦う。

好きなことで仕事になりそうなことって何だろうか。そんなことをいくら考えたって無駄だ。それがほんとうに好きかなんて、本気で打ち込んでみないとわからないからだ。部活だって趣味^{しゅみ}だってそうだろう。面白^{おもしろ}そうだなって思っ^⑧て始めても、やっていくうちに「ちよつと違うな」「自分には無理」っていう思いが込み上げてきて、結局中途半端^{ちゅうとうはんぱ}にやめてしまう。そんなのは、じつによくあることだ。

それに、どんな仕事だって、やってみると「意外に面白いな」と思うことがある。はじめはできなかったことができるようになってくると、何となく楽しくなってくる。好きなことを仕事にしないと仕事を楽しめないなんて、そんなのは大きな勘違^{かん}いだ。

「自分にしかできないことをしよう」なんて言われることもある。そんなことができたらかッコいいなとだれもが思うはずだ。自分もそうしたいと思うだろう。思うまではいいのだが、そこ^⑨から先に進めない。

「自分にしかできないこと」をしたい。それは、本気でそう思う。それなのに全然先に進めない。なぜなのか。それは、「自分にしかできないこと」というのが、いったい何なのかがわからないからだ。まったく見当もつかない。

⑧ それは当然だ。まだ実社会に出ていないし、人生の序盤^{じよばん}を生きているだけなのだから。自分にできることが何なのか。できないことは何なのか。そんなことは、いろいろやってみないうちからわかるわけがない。この先さまさまな経験をするこ

とで、「自分にできること」や「自分にはできないこと」が見えてくる。Ⅲ「自分にできること」が増えてくる。そうしているうちに「自分がやりたいこと」や「自分にしかできないこと」が徐々に見えてくるものだ。焦る必要はない。

(榎本博明『自分らしさ』って何だろう？ 自分と向き合う心理学』より)

注 「自己の二重性」……問題文より前の部分に、自己には「見ている自分」と「見られている自分」の二つがあると説明されている。

問1 Ⅰ Ⅲ に入る語として最も適切と思われるものを次の中よりそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(ただし、同じ記号をくり返し使うことはできません。)

ア、また イ、つまり ウ、たとえば エ、でも

問2 線①「抽象的な目標」の例として最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、文字が上手に書けるようになりたい。

イ、縄跳びで、二重跳びができるようになりたい。

ウ、人から好かれるようになりたい。

エ、英語を話せるようになりたい。

問3 線②「生きているという実感を得るために、果たして何をすべきなのか。いくら考えても、なかなか答えは見つからない」という苦しい状態を別の言い方で何と言っていますか。本文より9字でぬき出しなさい。

問4 線③「自分を否定する必要はない」と筆者が考えるのはなぜですか。80字以内で説明しなさい。

問5 線④「文句も言いたくなる」とはどのようなことに対する「文句」ですか。60字以内で説明しなさい。

問6 ⑤ に入る文として最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、つまらないことでも仕事にしよう

イ、つまらない仕事でもがんばろう

ウ、好きな仕事があるなら自信を持とう

エ、好きなことを仕事にしよう

問7 線⑥「そう思ってしまう」の「そう」とはどのようなことですか。その説明として最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、「鉄道が好きだ」、「野球が好きだ」というようなことは、本気で打ち込んでみないとわからないということ。

イ、「野球が好き」、「鉄道が好き」というだけで仕事につながると考えるのは、あまりに空想的であるということ。

ウ、筆者も大人だから、でたらめなことを言っている大人の考え方は十分に分かっているということ。

エ、好きなことが誰にでもあるので、それを将来につなげていけば、夢も実現できるということ。

問8 線⑦「そこから先に進めない」のはなぜですか。その答えとなる一文を本文よりぬき出し、最初の7字を答えなさい。

問9 線⑧「それは当然だ」とありますが、なぜですか。その理由を60字以内で説明しなさい。

④ 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(ぬき出しと字数が決められている問題は、すべて「」。「」記号などを字数にふくみます。)

「ねえ嘉穂ちゃん、あのお弁当箱、持ってきた？」

午前中の見学を終えてバスに乗ってすぐ、隣に座った日都子ちゃんがそう聞いてきた。工場で見せてもらった紙おむつの原材料が水をたくさん吸う実験が面白かったのか、見学前のような退屈そうな顔はしていなかった。

「うん、持ってきた」

ゆつくりと流れていく外の景色を眺めながら、嘉穂はうなずく。日都子ちゃんの目は、見られなかった。

「今日ね、お母さんが三色ご飯を作ってくれたの。卵と鮭と鶏そぼろのご飯が、綺麗に並んでるの」

アスパラと人参の肉巻き、野菜のみじん切りが入った卵焼き、野菜の胡麻和え、蓮根の入った肉団子、デザートは蜜柑の寒天ゼリー。冷凍してあるので、お昼に食べる頃にはちょうどいいくらいに溶けて、冷たくて美味しい。

聞いてもないのに、日都子ちゃんは自分の弁当の中身を丁寧に説明していった。

嘉穂の母も日都子ちゃんの母も仕事をしているのに、日都子ちゃんの母は遠足や運動会の日にちゃんと弁当を作る。綺麗で、カラフルで、美味しそうな弁当を。

溜息をつきそうになった。嘉穂の弁当も、紫でご飯に色をつけているけれど、きつと日都子ちゃんの弁当とは似ても似つかない見た目になっているだろう。色違いの弁当箱なのに、二人とも母が仕事をしているのに、どうしてこんなにも違うのだろう。つむじから首筋にかけて大きく三回ウェーブしている髪の毛を指先でいじりながら、嘉穂は弁当の入っているリュックサックを見下ろした。

プチトマトを煮物と鮭の間に押し込む、しわしわな人差し指。どうしてだろう。生々しく、今朝のことを思い出した。

トマトは、好きでもなんでもない。ただ、茶色い祖母の弁当をなんとかしたくて「プチトマト入れて」と、いつか言っただけだ。けれどなんの効果もなかった。茶色い弁当に一カ所だけ、赤い色が入っただけ。悪あがきをしているみたいで、

みつともなかった。

せつかくお祖母ちゃんが作ってくれたんだから、文句言わないでよ。ドレッサーの前でそう言った母の背中も思い出した。

気持ち悪い。

① 小さくそう呟くだけですべてすんだ。日都子ちゃんが「どうしたの？ 酔った？ 吐きそう？」と騒ぎ、担任の先生を呼んできた。

お昼を食べる公園の駐車場にバスが停まってからも、嘉穂は口元に手を当てて、自分の席で俯いていた。日都子ちゃんと席を代わった先生が、背中を摩つてくれていた。

「嘉穂ちゃん、みんなと一緒にバス降りようか。外の空気を吸えば、気分良くなると思うよ？」
首を横に振る。何度も振った。

「バスの中でお弁当食べてもいいですか」

具合の悪そうな声で、顔で、そう言う。先生は「しよがないわね」という顔でバスの窓を開け、みんなを連れてバスを降りていった。日都子ちゃんが残念そうにリュックを抱えてやってきたけれど、嘉穂は彼女の顔を見ないまま「ごめん」と一言謝った。

「ううん。お弁当食べ終わったら、遊びに来るね」

そう言うって、まっすぐに綺麗な髪の毛を揺らしながらバスを降りていく。先生に詰め寄って「嘉穂ちゃんと一緒に食べる」と言わないあたり、もしかしたら、嘉穂の嘘に気づいているんじゃないか。いつもいつも、嘉穂の弁当を哀れに思っていたのかもしれない。弁当だけじゃない。手提げ袋も、箸袋も、何もかも。

何もかも。

開け放たれた窓から気持ちのいい風が吹き込んでくる。外はちよつと暑そうだから、バスの中の方が弁当を食べるにはちよつといいかもしれない。

座席をほんの少し倒して、膝の上に弁当箱を置いて、嘉穂は一人っきりで弁当を食べた。プチトマトは鮭と煮物に潰されて、ひび割れていた。

トマトの汁が染みてしまった塩鮭も、不味くはなかった。ちよつと濃いめの味付けが、冷めてもちゃんとご飯と合うようになつていた。

柔らく煮えた人参に箸を刺したとき、バスが揺れた。誰かが、駆け足で乗り込んできた。弾むような足取りは、先生のものではなかった。バスの運転手も、先程からずっと駐車場の横のベンチで弁当を食べている。

足音の主は、堀越明仁だった。

「おー、大丈夫か」

嘉穂の席を素通りして、自分の席へと行く。

「どうしたの」

「水筒忘れた」

後ろの方を見ると、明仁が自分の座席の下から大きな水筒を取り出していた。

「弁当食い終わったら、喉渇いちゃってさ」

「はやっ、もう食べ終わったんだ」

「余裕」

給食だつて、彼はいつも最初に食べ終える。そして、余った牛乳やデザートを一番に手に入れるのだ。

「嘉穂ちゃん、バス酔い治ったら、みんなと食べばいいのに」

通路に顔を出していた嘉穂に明仁が言う。さつと、嘉穂はもとの位置に戻った。

「もうお弁当食べ始めちゃったから、別にいいよ」

外、暑そうだし。そう付け足すと、明仁は「そう!」と声を大きくして、通路を挟んで嘉穂の隣の席に腰を下ろした。手には水筒と、チョコチップクッキーの箱があつた。

「めちやくちや暑い。こっちの方が涼しくていいや」

そして、「いる?」とクッキーを一枚差し出してくる。

「今日はおやつ持ってくるの禁止じゃん」

「嘉穂ちゃんが秘密にしてくれればばれないから」

ほら、とクッキーを嘉穂の顔の目の前まで持ってくる。受け取ると、微かに指と指が触れた。芝の上で弁当を食べていたからか、青臭い草の香りがした。

細かいチョコチップの練り込まれたクッキーは、当たり前だけれど、煮物とも鮭とも違う食感が、味がした。

「嘉穂ちゃん、ひじき食えるの?」

ふと気がつくと、明仁が嘉穂の弁当を覗き込んでいた。咄嗟に、クッキーを持っていない方の手で隠してしまった。自分で隠したくせに、ずきりと鋭い痛みが胸に走った。

「その緑のでっかい豆も、食えるの? でっかいごぼうも?」

「まあ、食べれるけど」

「すげえ」

嘉穂の家では、食事は祖母の担当なのだ。祖母はこういったもののしか作らないから、食べられないとどうしようもない。

「うちの祖母ちゃんもさ、作るんだよ、ひじきの煮物。でっかい豆を茹でた奴も」

「うちもだよ。お弁当作るの、お祖母ちゃんだし」

小学校と中学校は、給食がある。高校生になったら、毎日が弁当になる。それまでに、ちゃんと料理ができる人になりた。心から、そう思った。

「だから、ハンバーグとかウインナーとか、全然入れてくれないんだよね」

「いいじゃん。そんなのみんな持ってくるんだから」

「みんな持ってくるから、嫌なんじゃん」

「だからそれがいいんじゃない。みんなと違うって、格好いいじゃん」

えー、何それ。箸の先で塩茹でされたそら豆を突きながら、嘉穂は言った。ころん、ころん。そら豆が弁当箱の中を転がる。「どうせだから、弁当箱も昔つばい木の奴にしなよ。たまに売ってるじゃん。しぶい色の木の弁当箱。その女つばい弁当箱だと変だけどき、木の弁当箱なら格好いいよ、絶対」

売っていた。日都子ちゃんとの弁当箱を買いに行ったときも、棚の隅に置かれていた。二人で指さして、「これは絶対に嫌」なんて笑い合った。

そら豆をオレンジ色の箸で摘んで、持ち上げてみた。人工的なオレンジ色と、毒々しい、緑色。この箸が、綺麗な木目のついた木の箸だったら。そう想像してみた。

あれ、悪くないんじゃないか。可愛くはないかもしれないけど、ちよつと、いいかも。

そら豆を口に放り込む。塩味の利いた、馴染みのある味。目を閉じて、木のお弁当箱を思い浮かべながら、ゆっくり噛んだ。

(額賀澤『ヒトリコ』より)

問1 — 線①「日都子ちゃんの目は、見られなかった」とありますが、それはどうしてですか。説明しなさい。

問2 — 線②「似ても似つかない見た目になっているだろう」とありますが、嘉穂が本当はお弁当に入れてほしかったものは何ですか。ここより後の文章から、具体的なものを答えなさい。

問3 — 線③「悪あがきをしているみたいで」とは、どのようなことを指していますか。なぜ「悪あがき」なのかが分かるように説明しなさい。

問4 — 線④「小さくそう呟くだけですべてすんだ」とはどのようなことを指していますか。最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、日都子に対する嫉妬や自分のみじめさをはっきりと感じてしまうようなお弁当の時間を過ごさなくてもよくなったということ。

イ、思い出してしまった母の言葉や祖母のお弁当のことを忘れてしまうくらい、こみ上げる気持ちの悪さが勝ってしまったということ。

ウ、祖母の作った茶色いお弁当を食べなくてはならないのが嫌だったが、呟くことで自分の気持ちが落ち着いたということ。

エ、カラフルなお弁当ではないけれど、祖母がせっかく作ってくれたお弁当だから胸をはって大事に食べようという気持ちが出たということ。

問5 — 線⑤「嘉穂は彼女の顔を見ないまま」「ごめん」と一言謝った」とありますが、この時の気持ちとして、最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、気持ちが悪くて約束を果たせない自分はずかしく思い、申し訳なさから日都子の顔が見られない気持ち。

イ、一緒に買ったお弁当箱を持ってきたのに、日都子と食べるのがつらくて嘘をついてしまい、気まずい気持ち。

ウ、残念がる日都子を見ると一緒にお弁当を食べられないことがつらく感じられ、泣いてしまいそうな悲しい気持ち。

エ、具合の悪い自分を置いて日都子がバスを降りようとしたので、恨めしく思い、日都子の顔を見るのも嫌な気持ち。

問6 —— 線⑥「きつと、嘉穂はもとの位置に戻った」とありますが、この時の嘉穂の心情として最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、本当は具合が悪くてゆつたりと一人でいたかったのに、明仁が戻ってきてしまつて嫌だと思ふ気持ち。

イ、本当は今の気持ちを明仁に分かつてもらいたいののに、素直に言い出せないでいる気持ち。

ウ、本当は具合など悪くないのにバスの中に残ったことを、明仁には知られたくないと思ふ気持ち。

エ、本当は明仁という話をしたいのに、通路に顔を出してられないほど具合が悪くてつらい気持ち。

問7 —— 線⑦「自分で隠したくせに、ずきりと鋭い痛みが胸に走った」とありますが、それはどうしてですか。隠した時の嘉穂の気持ちも含めて説明しなさい。

問8 —— 線⑧「すげえ」とありますが、この明仁の気持ちのおおもとにあるのはどのような考えですか。「〜という考え」につながるように、本文中より15字以内でぬき出して答えなさい。

問9 —— 線⑨「あれ、悪くないんじゃないか」と思つた嘉穂の気持ちの変化について、文章全体を読んで、最も適切と思われるものを次の中より一つ選び、記号で答えなさい。

ア、祖母の作つたお弁当が嫌で仕方がなかったが、それはカラフルなお弁当を持つ日都子と自分を比べてしまうからであつて、そのこだわりを捨ててみると新しいものの見方に気付くことができた。

イ、カラフルなお弁当を作る日都子の母をうらやましく思う一方で、祖母への恨みがつのつていたが、みんなと違つていい、と明仁に言われたことで自分の間違いに気付いた。

ウ、祖母が作る昔からのおかずや味付けは、見た目の派手さはないが良いものだと思っているので、本当は日都子にもその良さを分かつてもらいたかったが、明仁は気付いてくれて嬉しく感じた。

エ、カラフルで可愛いお弁当に憧れていたが、日都子が嫌いだつたので素直になれず、茶色いお弁当の良さを共有できる明仁の言葉に救われたように感じて、気持ちが軽くなった。

(印の部分は何も書かないこと)



